

## 区 民 対 話 会 議 事 録

1 日 時 令和3年11月19日（金） 13:00～14:05

2 会 場 区役所3階講堂

3 参加者 敬愛大学：教授、学生7名

稲毛区：区長、地域づくり支援室長、くらし安心室長、  
地域振興課職員2名

### 4 概要

【区長による「稲毛区のまちづくり」について説明後、質疑応答・意見交換を実施した。】

教授 地方と都市部で自治会の構成に差があり、運営も高齢化してきているとのことだが、  
実際、高齢者が運営している割合はどれくらいか。

室長 地区町内自治会連絡協議会の役員で言うと、50代の方もいるが、多くは60代以上  
となっている。全体的に高齢化が進んでいる印象がある。

学生A 子どもでも自治会に参加できる機会はあるのか。また、自治体・自治会の担い手不  
足が課題とのことだが、学生が自治会と触れ合う機会があればいいと思うがいかがか。

区長 子ども向けに、盆踊りや子供会でのイベントなど、家族でも参加できるイベントが開  
かれている。自治会対抗の運動会なども開かれていたので、子ども時代はそこに参加し  
ていたかもしれないですね。

また、自治会と触れ合う機会を増やす機会をとのことについては、窓口関係では電子  
申請化を進めており、なるべく区役所に足を運ばなくても済むような取り組みを行って  
いる。そのため地域づくりの観点から市民と触れ合う機会がある部署は地域振興課だと  
感じている。

地域で活動する人は自治会に限らず、社会福祉協議会やNPOなどで活動している方も  
いるので、多様な人たちを巻き込みながら、すべての人がまちづくりの推進に参画して  
いけるようにするにはどうすればよいのか考える必要があると思う。多様な価値観があ  
るなかで、自分たちだけでなく、周りにどんな人がいるのかなど、地域でのつながりを  
考えてもらうためにアプローチしていくことを地域振興課が行っていくことが必要だ  
と思う。もちろん地域振興課だけでなく社会福祉協議会などとも協力して事業を進めて  
いく必要はあると感じている。

学生A 自分のコミュニティ（学生側）から地域に既にあるものに対してアプローチができ  
るのではないかを考えている。そうすれば、まちづくりにつながるだけでなく、自分も  
自治体に貢献できていると実感できるのではないかと思う。

教授 当事者研究を通じて客体的に見られるようになるのはいいことだと思う。自分が生活  
してきた空間での研究を通じて、周りの人に呼び掛けていくと、積極的に動いていける  
し、つながってもいけると思う。住民として考えるのはいいことだと思う。

学生B 区役所に行っても事務手続きでいっぱい、地域で何をしているのかわからない。  
SNSを通じて情報発信をしていくと若者にも情報が広がっていくと思うので、今後それ  
を生かしていくのはどうか。

区長 SNSは若者に受け入れられやすいことは承知している。今年度取り組んだことは、区

内の専門学校生に協力いただいて、選挙の投票率を上げるための啓発動画を YouTube で作成した。この事業を通じて、関わった生徒さんには選挙啓発につながり、次は自分も協力したいという生徒さんが出てきたと聞いている。いろいろな方を巻き込んでいくことは良いと実感した。また、SNS ではないが、市政だよりでは、地域活性化支援事業の団体紹介を行っている。今後、SNS などの手法を充実させていきたいと思う。どんなことだったら若い方は受け入れ易いか。

学生 B 文書だけではなく、動画など最初の入り方は簡単に情報が入手できる方が、若者の反応はいいと思う。具体的なアイデアはないがそこを上手く使うと若者にも興味を持ってもらえるのではないかな。

教授 学生でもできることとして、地域で活動する団体にインタビューをしてそれを載せる事をすれば、自分も勉強になるし、地域や行政にも役立つと思う。

学生 C 夏休みに生涯学習センターで学ぶ機会があり、その際に自治会・区役所・生涯学習センターでつながりを持つことが大切だと思った。自治会から区役所や生涯学習センターへのつながりがないと、情報伝達・情報共有の面で難しい部分が出てくるのではないかな。現状、その3か所ほどの程度つながっているのか。

区長 自治会は、生涯学習センターを利用者としては使用しているかもしれないが、自治会と生涯学習センターで直接はつながっていないと思う。生涯学習センター企画の講座等のチラシ回覧などや参加などはあるかもしれない。自治会と区役所では、広報板で行政からのお知らせの掲示や、回覧板で回覧してもらっている。例えばごみの回収方法が変わったときなど、市の事業が大きく変わることがあれば地域住民に広く知らせるために自治会に呼び掛けを行っている。

学生 C 自治会と区役所では、一緒に何かをすることはなく、ただお知らせを流すだけになっているのか。

区長 区民まつりでは、協力してもらい、実行委員会形式で一緒に行くこともあるが、イベントは基本的にどちらかが主催であり、共催・後援で行うことはあまりない。逆に若者から見て、自治会の取組で行政も一緒にやったほうが良いと思うものがあるか。

学生 C 生涯学習センターで行っている講座を公民館のテレビで流したところ、自治会の人に来てくれるようになり新たなコミュニティが形成されたということがあった。そういった情報を少しずつ自治会に流していけばもっと市民と距離が近くなるのではないかな。

区長 コロナを機に対面開催の機会が減り、これからは Zoom などでも情報発信をしていく必要があると感じている。今年度は、地域活性化支援事業の中間報告会（会議）を Zoom で開催した。その際、Zoom が使用できない方に対しては、区役所にお越しいただき、参加してもらった。今後、区役所で企画している講演会についても、Zoom 利用可の講師であれば、対面と Zoom の2本立てで行えないか検討している。

教授 敬愛大学では、他市の公民館に対し、大学の YouTube を見られるようにした。公民館は、生涯学習の場だけではなく、一番身近な市民の場であると思っており、出歩くのが難しい高齢者に対し、インターネットでつないだことは素晴らしいと思う。生涯学習の場としての公民館よりも、コミュニティづくり拠点の公民館としてシフトしてほしいと思う。社会情報インフラとしての拠点が公民館であるべきだと考えるので、公民館に行

けばインターネットを使えるような環境になればいいと思う。

区長 公民館は、地域にとってはキーポイントであると思っている。コロナで緊急事態宣言になったからといって中止にするのではなくできる事がないのか模索していくことが必要だと考えている。

学生D 今後稲毛区をどのように発展させていきたいと考えているのか。

区長 稲毛区の特色として、「文教のまち」を掲げている。大学が多いことや快速電車がとまる地の利の良さであることから、若い方が多く活気があふれるというテーマにあっていると思う。また、区内には浅間神社をはじめ伝統文化も残っており、地域にはそのつながりからのコミュニティもある。新しく来た人にも紹介しながら、新しいつながりを紡いでいけたらと思う。

地域が課題ととらえていることを聞き取り、課題解決のために様々な部署と連携しながら地道に取り組んでいき、皆さんに住んでよかったと思ってもらえることを積み上げていくのが我々の仕事だと思う。

教授 地域団体（NPO）との協力だと、お祭りとか華やかな部分にはなるが、そういったことだけでなく、地道に社会に根づかせることも大事だと思う。